

坂川散策路 整備事業 デザイン ワークショップ

— Report vol. **2**

まつどの将来像と仕組みづくりについて 参加者同士の意見交換ができました



坂川散策路デザイン検討の第2回目のワークショップが開催されました。第2回となる今回は、前回のワークショップで抽出したエリア毎の課題をもとに、エリアの将来像について意見交換し、ありうべきまちの将来像の実現に向けた仕組みづくりについて整理することを目的としました。藤村龍至氏によるレクチャーの後、市民の皆様と松戸市役所職員が活発な議論を行いました。

日時：2023年10月23日(月)17:30-19:30

会場：アーツスポットまつど

参加者：30名

ゲストファシリテーター

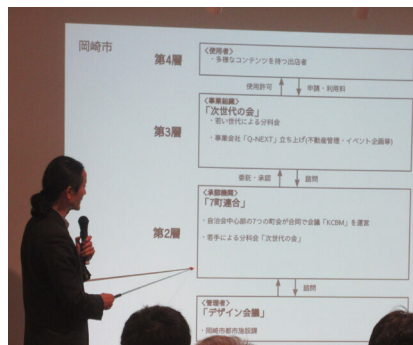
藤村龍至 | ふじむらりゅうじ

建築家 | 東京藝術大学准教授 | RFA主宰



まちの課題を実現するために
松戸市河川清流課長 渡辺

まず松戸市河川清流課長渡辺より挨拶があり、前回のワークショップで整理されたまちの課題や将来のビジョンの振り返りを行いました。「前回の議論を踏まえて忌憚ない意見をいただきたい」と述べられました。



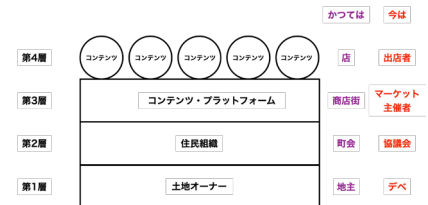
他地区の事例の紹介と
管理・運営の4層構造について
藤村氏

続いて東京藝術大学の藤村龍至氏から前回のワークショップで課題が上がった「管理・運営」の観点から、他地域の運営体制の紹介が行われました。

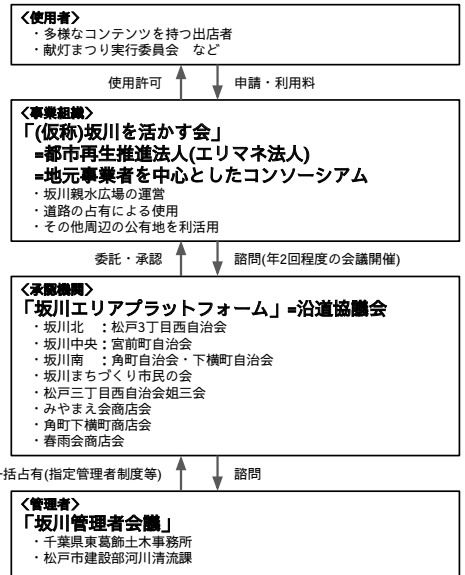
まず、愛知県岡崎市の「QRUWA戦略」では、岡崎市中心部の河川・緑道・道路空間を総合的に管理・運営する体制が生まれ、新しく整備された緑道は地域の高校生や市民らが日常的に利用しています。岡崎市では1層=都市施設課等の行政組織による「デザイン会議」、2層=民間組織である「7町連合会」、3層=若手世代の事業組織である「次世代の会」、4層=イベント・コンテンツを実施する民間事業者の4層構造で管理・運営の体制が整備されています。高齢化や空き店舗問題等のまちの課題が段階的に共有され、「次世代の会」の事業組織が地元で意見を図りながら提案し、それらを行政が支える体制ができていることがわかりました。他にも、長野県松本市では旧松本城城下町を「界限」と呼ばれる10のエリアに分けてエリア毎にイメージを作っていたり、兵庫県姫路市ではまちづくり協議会と行政4課が合同でサポートする体制ができている。

まちの4層構造

現代のまちはどのように運営されているか



他地域の事例を参考にすると、かつては1層=地主、2層=町会、3層=商店街、4層=店の構造でまちの運営がされていたが、現代においては1層=デベロッパー、2層=協議会、3層=マーケット主催者、4層=出品・出展者のような構造を作ることによって、管理運営がスムーズになるのではないかと藤村氏は説明します。



そこで、坂川の管理・運営の体制案が提案されました。例えば、水質管理や草刈り等の河川整備事業は1層が実施し、ゴミ清掃等は2層が協力し、イベントの管理は3層が主導して、祭り・イベント等の店単位の管理は4層が個々で行うなど、役割分担を明確化して河川を運営していく体制を作ると理想的ではないでしょうか。



1. グループワーク

今回のWSは5つのグループに分かれて前半・後半に分けて実施されました。前半のワークショップでは藤村氏より提案された坂川の管理・運営の体制案を下敷きに、各班ごとにまちの管理・運営についての意見交換を行いました。後半のワークショップでは、実際のまちの使い方やどのようなまちにしていきたいかを想像し、議論を行いました。

2. 発表

| 1班 |

運営：2層は自分たちが主役としてまちを活用するイメージができる。3層の想像ができない。体制づくりは困難であるが、整備する価値があると思う。

使い方：「川で遊ぶ」をテーマにしたい。魚釣り、飛び石、川床など綺麗になった川で遊ぶことができれば3層が育つのではないかと。LEDの足元灯を設置したり植栽を剪定するなど、道路機能を残しながら歩きやすい設えを整備したい



| 2班 |

運営：現状は3層と4層が統合されて祭りやイベントを実施している。3層が効果的に機能することができればより効率的に活動できる。有識者に他の地区のノウハウを教えてもらうなど初期の動きを円滑にすることが重要ではないか。

使い方：拠点は点在するのではなく、連続的にあったほうがいい。親水公園のウッドデッキを広げたり、川にせり出した設えを

橋に作ることで溜まりの空間を作り、子どもが遊びやすい環境づくりができると良い。銀行敷地の土日利用や朝市を実施するなど、時間帯やシチュエーションを分けたイベントがあると良い。



| 3班 |

運営：複数の自治会を横断する商店連合など、事例に近い組織が既にある。しかし、どの団体も同じメンバーが運営していることが課題。

使い方：一箇所の拠点整備ではなく、可能性のある空き地や寺院を複数の拠点として並行して整備したい。松戸宿としての歴史性を考慮したい。原田米店が解体される予定のため、旧水戸街道の歴史をもつ石畳を歩行者空間に転用したい。坂川左岸側はメインで人が歩く空間とし、坂川右岸側は川を感じられる歩行者空間とするなど、異なる通りとして使い分けることで「色のある街」にしたい。



| 4班 |

運営：民間と市役所は連絡体制が整っており、良好な関係ができているが、細かいルールづくりができていない。空き家・イベントなどエネルギーが足りていないので3層に期待している。保育園が主導して子供に花を植えてもらうなどが考えられる。

使い方：坂川だけでなく南側の市場跡地、水戸街道などまちを一体的に活用できるイベントが必要。花植えの際には専門業者を入れるなど、新しい形で自治会のパワーを補い、鮮やかな坂川づくりにつなげたい。



| 5班 |

運営：町会が高齢化し、若い人に参加してもらうことが難しい。坂川クリーンデー等で定期的に清掃活動を行っており、子育て層に可能な限り参加してもらっている。少しずつ顔見知りが増えてきており、それをきっかけに3層を発掘したい。顔見知りが増えることが災害時の協力体制をつくりやすく、自治会のスムーズな世代交代も可能になる。

使い方：歩きたくなるような環境づくり、家族連れがきやすい環境づくり、休憩できる場所があると良い。水上アスレチック、飛び石、吊り橋など川を渡ることができる仕掛けも考えられる。



| まとめ |

渡辺コメント

「川の特徴のある町、川で遊べるまち、川に子どもがあつまるまち」など河川に関する様々な意見が挙がり、新たな活動の場所も生まれそうだと感じました。3層をどのように見据えるのが課題であり、市としても考えていく必要があると感じました。

藤村氏コメント

坂川の管理・運営の体制案の議論を通して、「歴史・植物・遊び・川歩き・食事」などがキーワードにあがりました。空地などを活かした実験的な取り組みが整備段階の前後に行われ、活用のイメージが共有できれば、各層が活性化していくのではないのでしょうか。次回は将来像のイメージを描き、整備内容について議論ができればと思います。